稲 WCS を用いた乳用牛の育成方法の検討：畜産研究所
黒岩力也

【目的】酪農経営の飼料コストを抑えるため、乳用牛の育成段階（8か月齢）から授精時期（15か月齢）まで稲 WCS の給与試験を実施。発育及び繁殖成績への影響調査やコスト削減効果を検討するとともに、県内酪農家への稲 WCS 利用実態調査を実施。【方法】乳用種育成雌牛 12 頭に対し、濃厚飼料と輸入乾草を給与する対照区及び濃厚飼料と輸入乾草の約 7 割を稲 WCS に置き換えた試験区を設定し、給与試験を実施。また、稲 WCS 利用実態調査を県内酪農家 35 戸に対して実施。

【結果】給与試験では、体高や体重等の発育項目、血液性状に両区の有意差は見られなかった。また、初回黄体確認月齢や受胎月齢等の繁殖性についても両区に有意差は見られなかった。飼料コストは、給与量ベースで対照区 1,142 円に対し、試験区は 915 円となり、削減効果は 19.9%であった。利用実態調査では、育成牛へ稲 WCS を給与していない酪農家は 60.0%であり、今後試験の成果を示し、育成牛への利用を推進する。